

平成 27 年度 SSH 活動記録のページ

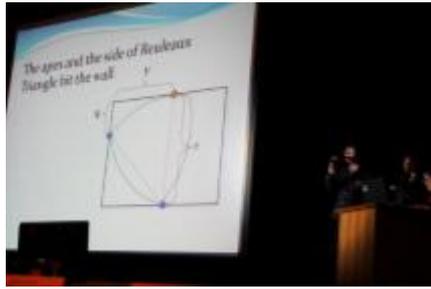
平成 27 年度 2 月 SSH 活動記録

平成 27 年度 2 月の球陽高校 SSH の取り組みを紹介します。

2016. 2. ISSH 校内生徒研究発表会

2 月 6 日(土)に本校体育館で SSH 校内生徒研究発表会が行われました。口頭発表が 8 チーム、ポスター発表が 12 チーム、研修報告が 2 チームで、どのチームも素晴らしい発表でした。生徒達はこの日の発表の為に、昼休みや放課後に理科や英語の先生方と一緒に練習を繰り返してきました。発表会後の SSH 運営指導委員会(OIST や琉大の先生方がアドバイスなさって下さる集まり)でも大変努力した成果が見えたとお褒めの言葉を多く頂きました！





感想

(1年)

- ・英語なのに皆、堂々と発表していて、先輩方はすごいな、と思いました。SSHは来年やることになるけれど、私もあのような発表を自信を持ってできるようになりたいと思いました。
- ・限られた時間の中で今までの研究の結果を発表するという事は難しいと感じたのですごいと思えました。

感想

(2年)

- ・予想してた以上に大勢の人が見に来ていて緊張したけどみんなに聞こえやすいように発表できて良かったです。
- ・自分の知らない世界の研究をきいて、こういうものもあるのかと新しい発見があり、視野が広がったと思う。質疑応答もしっかり答えていて自分の研究についてちゃんと理解しているんだなとわかった。
- ・研究の内容が専門的なので英語での発表は理解するのがとても難しかった。質問の際には、みんな的確に答えていたので、とても分かりやすかった。・ReadingやListeningはもちろんだけど、Speakingはとても大事だと思ったので、会話表現なども勉強していきたい。自分の研究内容も英語で説明できるようにしていきたい。
- ・今回、台湾学生とコミュニケーションをとることで自分の英語のスピーキング力の無さを改めて知ることができました。これからは、グローバル社会でコミュニケーションをとれるようにスピーキング力をつけたいです。そのために、近所にいる外人さ

んと会話したり、ささいなことでも家で英語を使って会話をしたいと思いました。

・単語がわからないと書くこともしゃべることも聞くことも難しいので、まずはもっと単語力を上げていく。あと、英語で会話する機会があったら積極的に話して少しでも英語力を上げるようにする。



(球陽中学合格内定者)

・やっぱり球陽高校の先輩はすごいなと思いました。なぜなら、英語もペラペラで分かりやすく説明してくれるからです。僕が高2になったら、今の先輩みたいに分かりやすく研究した事を発表したいです。

・英語の発表は、全然分からなかったので、球陽中で、たくさん勉強して、高2になったら、今日、みた発表のようにできるように頑張りたい。



(球陽高校合格内定者)

・ポスター発表の時、英語がペラペラだったので、入学したら、私も先輩みたいに英語でしゃべれるようになりたいと思いました。私が日常生活でつかっているものをつかっている実験が多くて、私もやってみたいと思いました。

・球陽高校の研究、発表はとてもレベルが高く、また、英語で発表しているというところがさすが球陽高校だなと思いました。2年後、3年後には、このような発表ができるようになるばらうと思いました。

2016. 2. 第 38 回青少年科学作品展

2月13日(土)に浦添市民体育館で第38回青少年科学作品展が開催されました！球陽高校からは物理2、化学5、生物5、地学4、産業1、計17作品を応募し、環境奨励賞1、佳作6、入選10という結果になりました！当日は土曜講座と模試があったので、代表で環境奨励賞を取った「赤土流出に関する研究」チームが表彰式に参加しました！この赤土チームは校内生徒研究発表会の舞台発表の際に英語で発表をした経験があるので、アメリカンスクールの親子に英語で発表もしました。他にも多くの人達にポスターを見てもらいとても良い経験になったと思います。

他校の生徒や小中学生の研究ポスターを見てみても参考になることが多く、同じような研究テーマでも研究方法にそれぞれの特色があり、研究者の数だけ研究アプローチの仕方があるということを実感する作品展でした。



2016. 2. Iサイエンス・ダイアログ

2月24日(水)のSSH探求IIの授業でサイエンス・ダイアログが行われました。ダイアログとは「対話」を意味し、日本学術振興会(JSPS)のフェローシップ制度で来日している優秀な若手外国人研究者に英語で科学の対話を行います。今回来ていただいたのは Faye Abigail T. CRUZ 博士(フィリピン)、Beata GRZYWACZ 博士(ポーランド)、Farzana HAKIM 博士(バングラディッシュ)、TYNELL, T. P. 博士(フィンランド)の4人です。授業はそれぞれの博士の母国の紹介と研究内容を紹介していただきました。その後生徒たちと質疑応答や対話が始まるのですが、この時間が一番盛り上がっていました。生徒からは「フィリピンでは台風対策のための防風林や石垣はないのですか。」など、科学を通してその国の文化を知ろうという意欲的な質問があり、大変良い経験になったと思います。

